



CAGLIERO 11

カリエロ



146 2021年 2月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



会員の皆さん、
友人の皆さん、

私たちはこの2021年、ドン・ボスコの二代目後継者、パオロ・アルベラ神父の帰天100周年を祝います。総長は「アルベラ年」を宣言しました。

「小さなドン・ボスコ」と呼ばれたアルベラは、その単純素朴さと深い霊性が私たちの心を打ちます。フランス語だけでなく英語も話し、書いた人。アメリカ大陸のすべての支部を回った3年に及ぶ訪問の旅。そして第一次世界大戦に直接関わった1500名以上のサレジオ会員に父親のように同伴したことでよく知られています。

皆さん、ドン・ボスコのお祝い、おめでとうございます！ 私たち皆がアルベラのように、「小さなドン・ボスコ」になれるように。

養成顧問
アイヴォ・コエリヨ神父
SDB

人間の尊厳の促進



今日、かけがえのない、基本的権利を有する存在として一人ひとりの人を尊重することは、社会が共有する価値になっています。私たちにこの認識は、政治的理由ではなく、人間が**神の似姿に造られている**と宣言する私たちの信仰に基づいています；たとえ一人ひとりの人がそれを認識していなくても、「神の子は受肉によって、ある意味で自分自身をすべての人間と一致させ」（第二バチカン公会議文書「現代世界憲章」22）ました。その人間こそ、教会の道、教会の日々の生活と体験の道です（ヨハネ・パウロ二世回勅『人間のあがない主』14）

したがって私たちは、キリストへの信仰の光のもとで、すべての人、一人ひとりの尊厳と権利の擁護に献身するのです。人権は非常に根本的なものであり、人権の否定は、人間の尊厳そのものを危うくせずにはいません。私たちの献身は、経済、技術、政治のレベルで直接働いたり、開発に物的な貢献をしたりするものではありません。むしろ、良心を**教育し**、人々が自らの権利と人間としての尊厳を守ることができるよう**力をつける**ようにすることから成るものです。

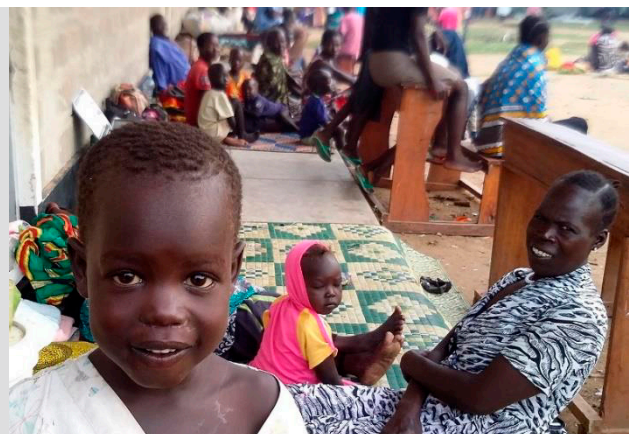
ドン・ボスコは、良いキリスト者、誠実な市民となるよう教育し、職業を身につけさせることによって少年たちの尊厳を促進しました。少年たちの権利を擁護し、正当な賃金と尊厳にふさわしい労働条件を保証する**契約**を、雇用主に要求することを決して恐れませんでした。

ゆえに、今日、私たちがドン・ボスコの宣教精神を生きることは、人間の尊厳を促進し、人々の権利を擁護するため、**具体的に取り組む**ことを意味します。それは子ども・若者、貧しい人、ホームレスの人や難民、外国人、特に、助けを求めることさえできず、その存在が「目に見えない」、社会の辺縁に暮らす弱い立場の人々です。

■ アルフレッド・マラヴィジャ神父, SDB
宣教顧問

振り返りと 分かち合いのために

- なぜ私たちは人間の尊厳を促進するのか？
- 私たちにゆだねられた人々の尊厳と権利を、どうしたら促進できるだろうか？



注意！ 編集チームのEメール・アドレス cagliero11@sdb.org
前号に、間違ったアドレスが掲載されました。お詫びし訂正します。

Cagliero 11 (カリエロ11) の全バックナンバー : <http://salesians.jp/library/cariero>

マグダとイヴィク： 舞台裏の 2人の宣教者



二人は宣教事務局のメディア部門で働いていますが、自分も宣教者だと感じますか？

マグダ：サレジオ宣教事務局のメディアのために喜んで働いています。自分はサレジオ宣教家族の一員、宣教の「後方支援」で働いていると感じています。宣教地で行われている善いことを人々に知らせたいのです。

イヴィク：私は宣教地にいませんが、現地の人たちを助けることができます。現地の状況、すばらしい宣教活動、人々をどのように助けられるか、そのことを書いて助けることができます。

若い信徒の女性として、自分にできる貢献は何だと思いませんか？

マグダ：メディアとコミュニケーションの細部に別の視点をもたらすことだと思います。よりアプローチしやすい形でメッセージを伝えようと心がけています；若者がすぐに受けとめるような画像や文章を作っています。

イヴィク：私たちは宣教国の人々の問題に敏感です。現代の言葉で、クリエイティブな方法でそれを伝えることができます。多くの人々が利用するメディアを使い、若者の心に届くようなキャンペーンや内容を制作します。

サレジオ・ボランティアの体験から持ち帰った、いちばん重要な、大切な「もの」は何ですか？

マグダ：私が学んだいちばん大切なことは、ここで、今を生きるということです。良いことも大変なこともあった過去を感謝し、将来についてあまり心配しないこと。すべてを神にゆだね、神と人々に誠実であることです。

イヴィク：宣教地で出会った人たちとの絆です。それから、宣教師たちが、人々と、人々の抱えている問題に最も寄り添っているのを見ました。宣教師たちは働いている場所の現実を知っています。その助けは直接的です。



マグダレナ・トルビチュク(マグダ)

ヴロツワフ、ツヴァルドグーラ出身。ソーシャル・メディアの専門家として2015年からワルシャワの宣教センター(SOM)、メディア部門で働く。オデッサ(ウクライナ)、エルサレム(イスラエル)、ベツレヘム(パレスチナ自治区)でボランティアを経験。



イヴォーナ・ブエドフスカ(イヴィク)

ワルシャワ、ツィラルドゥフ出身。2019年5月からSOMのメディア部門で働く傍ら、宣教ボランティアの養成にもたずさわる。ルワンダ、ジスネイのマリア・マザレロ技術高校でボランティアを経験。

難民という事象

フ
ォ
ー
ラ
ム

難民と国内避難民(internally displaced persons, IDP)の事象は、非常に現代的な問題であり、私たちにとって新たな宣教の前線です。2019年だけで、**7,950万人**もの人々が生まれた土地を離れることを余儀なくされました。その中の**2,600万人**が難民で、多くは近隣諸国に逃れ、また**4,570万人**が国内避難民です。この人々の40%は未成年です。このことは私たちに注意を促し、この苦しむ子ども・若者たちのために五大大陸で行っている事業を、サレジオ家族として促進するよう、私たちを鼓舞します。この子ども・若者たちと共にいることは、私たちの優先事項です。

■ マルコ・フルガロ refugees@sdb.org

2月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

女性に対する暴力

チェコの妊娠中絶を経験した女性に
愛をもって寄り添えますように。

「暴力の犠牲者となった女性たちのために祈りましょう。この女性たちが社会によって守られ、その苦しみへの思いやりと配慮がありますように。」 | 教皇フランシスコの祈りの意向 |

ヨーロッパ
のために

